

二宮「損得」の時代



遠くをはかる者は 富み
近くをはかる者は 貧す

それ遠きをはかる者は 百年のために杉苗を植う
まして春に蒔きて 秋実るものにおいてや

故に富あり

近くをはかる者は
春植えて秋実るものをも なお遠しとして植えず
唯眼前の利に迷うて 蒔かずして取り
植えずして 刈り取ることのみ眼につく

故に貧窮す

これは江戸時代後期の農政学者、二宮尊徳（金次郎）の名言です。
背中に薪を担いで、読書にふける金次郎像。
太田東西が卒業した小学校にもあったことを記憶しています。

今年はNHK大河ドラマ「龍馬伝」で坂本龍馬がブームになりましたが、二宮尊徳も同じ時代を生きています。(坂本龍馬 1836～1867 二宮尊徳 1787～1856)。坂本龍馬も素晴らしいですが、太田東西は、人の生き方、心の持ち方を説いた二宮尊徳に親みを感じています。

100年に一度の大不況。

長引く景気低迷の影響は、太田東西とて例外ではありません。

お給料ダウン、です...。(こんなこと、ここに書いていいのか)

自営業、サラリーマンのお客様からも、マイナス思考発言が目立ちます。

「この先やっていけるのか、とても不安で.....」

こうした「不安思考回路」が脳に定着しますと、健康を失うばかりか、尊徳の言う「近くをはかる者」モードになりかねません。

いつも頭にあるのは、目先の利益、売上、収入確保のことばかり。

影のようにつきまとう「不安」におびえながら...

そこに「打算」はあっても、「魅力」はありませんから、必然そんな人は、お客取引先、部下から信用を得られません。一方で「愚痴」「小言」は増えますから家族からは嫌われ、疎まれる存在になってしまう。

ゆえに、「貧窮」するわけです。

『植えずして刈り取ることのみ眼につく』

社会が合理的になり過ぎて、植える「ゆとり」「思いやり」をなくし、刈り取る「能率」「利己」主義が蔓延しています。

まさに、二宮「損得勘定」の時代。

しかし、「富あり」になるためには、遠くをはかりながら、刈り取ることよりも植えることを重視すべきと尊徳は言っています。

では、何を遠くにはかり（想像し）、何を植える（行動する）のか？

太田東西の漢方相談が「経営相談」になること、しばしばです（笑）。

「遠くをはかる者」は健康にも恵まれる

それ遠きをはかる者は、百年のために杉苗を植う
まして春に蒔きて 秋に実るものにおいてや
ゆえに富あり

この一節は、「予防医学」に通じています。

病気になってからジタバタするのではなく、病気になる前に、病気にならない生き方を心がける。

そのためには、遠くをはかる「イマジネーション（想像力）」が必要です。

病気がなかなか治らない人、次から次に病気に見舞われる人は、この「想像力」が欠如していると思われれます。

先の百年のために、次の秋のために、今から植える、春から種を蒔くという遠くをはかる健康観、「予防意識」を持てるかどうか。

『春植えて 秋に実るものをも なお遠しとして植えず』

病気をたくさん抱え、病院から山ほど薬を処方されていても、「漢方はすぐに効かないし、薬代も高いから」と敬遠される人もいます。

我田引水ではありますが、それは「近くをはかる者」の声だと、自らの仕事に誇りを持つために、そう受け止めています。

より安く、より早く、より楽になる薬。

太田東西は「牛井屋」ではありません（笑）。

来年も皆さんを、「遠くをはかる者」に導く漢方相談を愚直に貫きます。

太田東西を信じる皆さんを、「富む道」に導くことが自らの使命ですからね。

「損得」ではなく、二宮「尊徳」を信じて来年も頑張ります！

坂本龍馬が没しておよそ 150 年。

なぜ彼が 150 年経った今でも人気があるのか？

それは彼が「遠くをはかる者」だったからでしょう。

近くの自己の利を追うことなく、遠く日本の将来の利を考えて生きた結果です。

龍馬のように「日本の将来」とは言わなくても、家族、子孫のことまで考える

「遠くをはかる人生」を踏んで行きたいものです。

久しぶりの東京

11月中旬、臨時休業をいただき2泊3日で単身上京してきました。

そのお知らせに

「一人暮らしの息子の様子を見に上京する親バカをどうぞお許してください」と正直に記しました。

太田東西は25年前、ロックバンドを組み、茶髪の長髪で、ギターをガンガン派手にやっておりました。(それがまさかこんな地味な東洋医学の仕事に就くとは...)

上京の一番の目的は、昔のバンド仲間と久しぶりに会ってロックコンサートに行くことだったのです。そこに今春から東京で暮らす息子も呼んで。

Rock and roll
crazy night~
You are the
hero~~~~!!



絶叫してきました。終了後には声はかすれ、耳鳴りピ~~~~でした。

「オヤジ、いい経験だったよ、楽しかった、ありがとう!」と、息子。思い切って仕事を休んで上京してよかったです。

(臨時休業中に来局されたお客様、ゴメンナサイ...m(_ _)m)

翌日には練馬の妻の実家を訪れ、義父母にキャベツたっぷりヘルシーメンチカツを振舞いました。もちろん冷凍食品ではなく挽き肉からの「手作り」ですよ。久々に乾杯して、夜遅くまで談笑。(義父もマーヤをのんでいます^^)



「遠くをはかる」太田東西としては、お客様も大切ですが、家族も大切です。「不況だ...不安だ...」と渋い顔で財布のヒモを固く締め、眉間にシワを寄せて暗く生きるよりも、家族みんなが健康で笑顔で生活するために、「前向きに」時間とお金は使いましょう

(留守番の妻に、夫からたくさんのお土産があったのは言うまでもありません...涙)